

すぎなみコミュニティカレッジ

講座：『もっと知りたい身近な図書館』

はじめに

社会教育センターでは、平成14年度から、地域でのさまざまな活動に対して区民の方が抱いている参加・貢献意欲を、実際の活動につなげていくための学習の機会として、すぎなみコミュニティカレッジを立ち上げました。

平成14年度は教育分野を中心に12の講座を実施しましたが、この一環として本講座を開催しました。

この講座は、学習を支援する図書館の実際やボランティア活動の実例を学ぶ内容としました。

この冊子は、そうした講座の概要及び内容の一部をご紹介します、講座テーマに関心をお持ちの区民の方々に広くご理解いただくことで、区内で図書館や読書活動に携わられているみなさまの日々の活動に生かされるとともに、これをきっかけに地域活動への第一歩を踏み出していただけるとも願って発行しました。

最後になりましたが、ご多忙にも係わらずこの講座の趣旨をご理解いただき、快く講師をお引き受けいただいた講師の皆様や、運営にご協力をいただいた学校教育コーディネーターの皆様、記録作成にご協力いただいたNPO法人「生涯学習 知の市庭」の皆様に、厚くお礼を申し上げます。

平成15年7月

杉並区教育委員会

目次

はじめに

講座の広報ちらし

講座のようす

Vol. 1 「オリエンテーション」

Vol. 2 「図書館サービス」

Vol. 3 「図書館とボランティア」

Vol. 4 「本の返却処理・書架整理の体験」

Vol. 5 「小学校の図書館の現状について」

参加者アンケート集計結果

講座ちらし

平成14年度 すぎなみコミュニティカレッジ

***** もっと知りたい身近な図書館 *****

図書館は、情報や資料の提供を通して、区民の生涯学習や地域活動、ボラン

ティア活動などをバックアップしています。

この講座では、図書館で得られるサービス、図書館に求められている地域の活力などについて、実習をまじえて学習します。学習を支援する図書館の実際やボランティア活動の実例を学び、生涯学習の成果を発揮する場を考えていきます。

第1回 2月13日「杉並の図書館サービス / 図書館紹介ビデオ / 施設見学など」

第2回 2月27日「図書館サービス（児童サービス / 障害者サービス / 資料整理 / レファレンス / ほか）」

第3回 3月13日「図書館とボランティア」（後半は講師と図書館職員を交えてのディスカッション予定） 講師：元市川図書館友の会会長 押樋良樹氏
*

第4回 3月20日「図書館体験（本の返却処理 / グループに分かれての体験実習）」

第5回 3月27日「受講生によるディスカッション」
話題提供：馬橋小学校 千田てるみ教諭ほか

講座は、毎週木曜日午前10時～正午。中央図書館（荻窪駅徒歩8分）で行います。

参加費1,000円は初回に集金します。

申し込みは、下記社会教育センターに、電話またはfax（氏名・住所・電話・fax・性別・年齢）でお願いします。先着順（30名）となります。1歳からの託児・聴覚障害者のための要約筆記を希望される方はご相談ください。

* 押樋さんプロフィール・・・大学で芸能デザインを専攻。児童書専門店「童話屋」の企画設計を機会に図書館との関わりが始まり、浦安市立図書館ツールデザインなども担当。

講座運営：杉並区図書館職員

主催：社会教育センター（TEL：03-3317-6621 / FAX：03-3317-6620）

すぎなみコミュニティカレッジ
講座『もっと知りたい身近な図書館』

Vol. 1 「オリエンテーション」

2003年2月13日（木） 10：00～12：00 於：杉並区立中央図書館

1. 杉並の図書館サービスと今後の課題 (中央図書館次長)

杉並区基本計画で、生涯学習の推進のために図書館サービスの充実がうたわれている。地域の情報拠点としての役割りが、社会状況の変化に従い、益々重要になって来ているのが根拠となっている。

杉並の図書館の現状と課題

- ・利用者数（貸出登録者数）：123,494人で漸増（平成12年度）...23区中2～3位、個人貸し出し冊数はH11年度をピークに落ちている。活字離れなのか、見極めが必要。

- ・レファレンス対応：約6,000件で横這い、努力の必要性を感じている。
- ・各地域に図書館を2館設置する目標があり、3館増設する予定、14館体制をつくる。

- ・高井戸・阿佐谷・永福和泉地域区民センターの図書室の業務管理を、オンライン化に向けて内部での検討を進めている。

図書館情報化の推進について

- ・地域の情報拠点にしていきたい。そのための、現在までの取り組みは以下の通り。

2001年（H13）11月...インターネットによる書誌情報の検索を可能に。

2002年（H14）10月...インターネットによる予約サービスを可能にした。

た。

2002年（H14）12月...都内公立図書館の横断検索システムに参加（東京21～22自治体）。

2003年（H15）中に...インターネットによるレファレンスサービスの実現（準備中）。

- ・現在、杉並区内の図書館案内は、杉並区のホームページ内にあるが、今後は、図書館ホームページ検討委員会を立ち上げ、サービス内容を充実させていきたいと考えている。

- ・家庭にパソコンがない人など初心者向けのIT講習会、活用方法の指導などを充実していきたい。

- ・「ブックスタート」 支援として、平成14年4月より、「ブックスタートパック（袋）」の提供を行っている。この袋の中に絵本2冊（『しろくまちゃんのほっとけーき』、『おつきさまこんばんは』）、親向け冊子（『あかちゃんの好きなものしってる』）、図書館貸出登録書（あかちゃんも登録可能です）パンフなどが入っている。

「ブックスタート」

地域の保健センターで行われる0歳児健診の機会に、すべての赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながら絵本を手渡す運動です。赤ちゃんの体の成長にミルクが必要なように、赤ちゃんのことばと心を育むためには、暖かなぬくもりの中で優しく語りあう時間が大切です。そうした時間を通して、赤ちゃんは自分が愛されていることや守られていること、大切な存在であることを体感し

ます。そしてことばを呼応させる経験の積み重ねからゆっくりと、人を信頼することを知り、さらに自分以外の人と気持ちを通わせる力を育むのです。また赤ちゃんと向かい合うそうしたひとときは、周りの大人にとっても心安らく楽しい子育ての時間になります。ブックスタートは、そのかけがえのないひとときを「絵本」を介して持つことを応援する運動です。

2001年4月に先駆的な21市区町村から開始した日本のブックスタートは、親子に本の楽しさを伝える運動として、地域の子育て支援運動として、ひとづくり・まちづくりの運動として、人と人とを結びながら日本の各地に広がっています

(NPOブックスタート支援センターのホームページより)

その他の論点

- ・NPO・ボランティアとの協働による図書館運営：一業務のみならず図書館運営も一緒に行っていきたいとの検討を図書館運営のあり方検討会で議論をしているところです。

- ・レファレンスサービスの機能強化をするために中央図書館に調査相談係を設置しました。

- ・学校への支援を強めたい、「子どもの読書活動の推進に関する法律」と「総合的な学習の時間」などに対応して、学校図書室と「調べ学習」等への支援を迅速に手を打ちたいと考えている。

- ・休館日/利用時間：年中無休が理想なので、現在検討中である。また、利用時間に関しても延長を検討中で、定例休館日など利用できない区民への図書サービスを提供しなくてはならないという考え方に基づくものです。

図書館ボランティアと進めたいこと

- ・利用者サービス

蔵書案内、書架の整理、イベント（講演、映画上映etc.）の企画・運営、児童・ヤングアダルトサービス、「ブックトーク」（本の紹介）

「ブックトーク」

本の紹介にはいろいろな方法がある。劇化する、紙芝居にする、読み聞かせ、パネルシアターを使う、帯紙（腰巻き）作りなど。さらに、テーマを決めて本の内容を紹介するブックトークという方法もある。ブックトークを簡単に言えば本の紹介となるが、それも堅苦しい紹介の仕方ではなく、ひとつのテーマに沿って興味が出てくるように本を選び、楽しみながら紹介していくものである。

- ・ハンディキャップ・サービス

障害者・高齢者へのサービス...自宅への本の宅配etc.

- ・パソコン活用...操作指導etc.

- ・郷土資料の収集と整備

課題：個人情報保護条例への対応、守秘義務の徹底etc.

2. 図書館の紹介ビデオ

大学図書館をベースに、図書館の機能を説明したビデオを上映。情報の入手方法に力点を置いた内容である。

< 専門用語の解説 >

縮刷版：版を縮小して印刷したもの。朝日、毎日、読売、日経新聞などが代表的。

オパック（OPAC）：Online Public Access Catalogの略。図書館内の蔵書を調べる機械。

フィールドワーク：現場または現地での探訪・採集。

紀要：大学研究所などで刊行する、研究論文を収載した定期刊行物。

NDC（日本十進分類法）：日本における標準的な図書の分類法。主題（テーマ）ごとに図書を分類している。

〔 類目表（1次区分表） 〕

0：総記 General works ...図書館、書誌学、百科事典、逐次刊行物、叢書

1：哲学 Philosophy ...哲学、心理学、倫理学、宗教

2：歴史 History ...歴史、伝記、地理、紀行

3：社会科学 Social Sciences ...政治、法律、経済、統計、社会、教育、民族、軍事

4：自然科学 natural Sciences ...数学、理学、医学

5：技術 Technology ...工学、工業、家政学

6：産業 Industry ...農林業、水産業、商業、交通

7：芸術 The arts ...秘術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽

8：言語 Language

9：文学 Literature

レファレンス：図書館で、資料・情報を求める利用者に対して提供される援助。

< 資料 - 1 > 杉並区立図書館の実績（平成12年3月末現在）

人口：515,945人

蔵書冊数：1,868,733冊

（内訳）一般図書：1,405,639冊

児童図書：437,066冊

その他図書：25,488冊

貸出登録者数（登録率）：123,494人（23.94%）

個人貸出人数：1,139,423人

個人貸出冊数：3,646,543冊

登録者 1 人当り年間貸出冊数：29.53冊

団体貸出冊数：210,522冊

区民一人当り蔵書数：3.62冊

区民一人当り年間貸出冊数：7.07冊

図書 1 冊当り年間貸出数：1.95回

以上、杉並区全体の内容

* 杉並区立中央図書館の規模等

開館：1982年（S57）10月5日

敷地：5.097.85m²

座席：一般78、児童10

（出所：杉並区のホームページより <http://www2.city.suginami.tokyo.jp/top.asp>）

< 資料 - 2 > 全区域サービス体制と充実計画

区全域サービス体制の現状

杉並区では、基本構想に基づく長期計画により、区内を7つの地域に分けてサービス施設の推進を図っています。その中で図書館は、それぞれの地域に2館ずつ建設することを目標にし、区全域に渡るサービス体制の確立を目指しています。

現在は、平成10年5月にオープンした高井戸図書館を含め11館が整備されました。

地域別	現行のサービス網	建設計画
A / 井草地区	柿木図書館、下井草図書館	
B / 西荻地区	西荻図書館	B 図書館
C / 荻窪地区	南荻窪図書館、中央図書館	
D / 阿佐谷地区	成田図書館、阿佐谷図書館	
E / 高円寺地区	高円寺図書館	E 図書館
F / 高井戸地区	宮前図書館、高井戸図書館	
G / 方南和泉地区	永福図書館	G 図書館

14館の完成と今後の課題

区内14の図書館による全域サービス網が完成すると、人口36,000人の地域に一つの図書館があり、サービス提供ができることとなります。しかし、図書館のサービスは、施設の増加だけで図れるものではありません。ライフサイクルに応じた資料の充実、急速に発展する情報機器への対応、常に提供するサービスの内容・質の向上が問われています。

（出所：杉並区のホームページより）